

鎌ヶ谷市の財政をちょっと見てみよう

～平成30年度決算版～

はじめに



鎌ヶ谷市では、予算や決算をはじめとした財政に関する情報を積極的に発信しております。より多くの方に財政状況を知っていただきたいと考え、わかりやすい表現に心がけて「鎌ヶ谷市の財政をちょっと見てみよう」を作成しました。

市の仕事は、学校・福祉・ごみ処理・道路整備など、みなさんの生活に密接に関係したものばかりです。ぜひ、みなさんが、市の事業や財政状況をより身近に感じていただければと思います。

もくじ

- P 2 1 時限目 そもそも財政ってなんだろう
- P 3 2 時限目 1年間でどれくらいのお金を取り扱っているの？
- P 4 3 時限目 どんなお金が入ってくるの？
- P 5 4 時限目 市民のみなさんからどのくらいお金を納めてもらっているの？
- P 6 5 時限目 何のため（目的別）にお金を使ったの？
- P 7 6 時限目 どんなこと（性質別）にお金を使ったの？
- P 8 7 時限目 教育にはどれくらいお金を使ったの？
- P 9 8 時限目 貯金はどれくらいあるの？
- P 10 9 時限目 借金はどれくらいあるの？
- P 11 10 時限目 家計におきかえるとどうなるの？
- P 12 11 時限目 お金の使い方はどうやって決めているの？
- P 13 12 時限目 こういうことにお金を使いました
- P 14 13 時限目 財政状況は大丈夫なの？

(注) おことわり

これから出てくる「県内37市」の比較は、総務省が定めた全国一律ルールである普通会計決算に基づいた決算額としています。

「県内37市」とは、鎌ヶ谷市を含む千葉県内の全市です。(千葉市、銚子市、市川市、船橋市、館山市、木更津市、松戸市、野田市、茂原市、成田市、佐倉市、東金市、旭市、習志野市、柏市、勝浦市、市原市、流山市、八千代市、我孫子市、鴨川市、鎌ヶ谷市、君津市、富津市、浦安市、四街道市、袖ヶ浦市、八街市、印西市、白井市、富里市、南房総市、匝瑳市、香取市、山武市、いすみ市、大網白里市)



テレビや新聞で「財政が・・・」ということを知ったことがあります。でも、そもそも、「財政」ってなんですか？

国や地方公共団体（千葉県や鎌ヶ谷市など）がお金をやりくりすることを「財政」といいます。

具体的には、市民のみなさんや企業の方に納めていただいた税金、国や県から入ってくるお金、銀行からの借金、将来のために積み立てた貯金などを使って、学校、公民館、道路などの公共施設を整備したり、教育や福祉などの公共サービスを提供したりすることです。



《イメージ》

財 政

(市に入ってくるお金)

税金、寄附金



国・県からのお金



銀行などからの借金



鎌ヶ谷市

地方公共団体



(市から出ていくお金)

公共サービスの提供



(例) 福祉・教育・防災



(例) 道路整備



2 時 限 目

鎌ヶ谷市は1年間でどれくらいのお金を取り扱っているのですか？

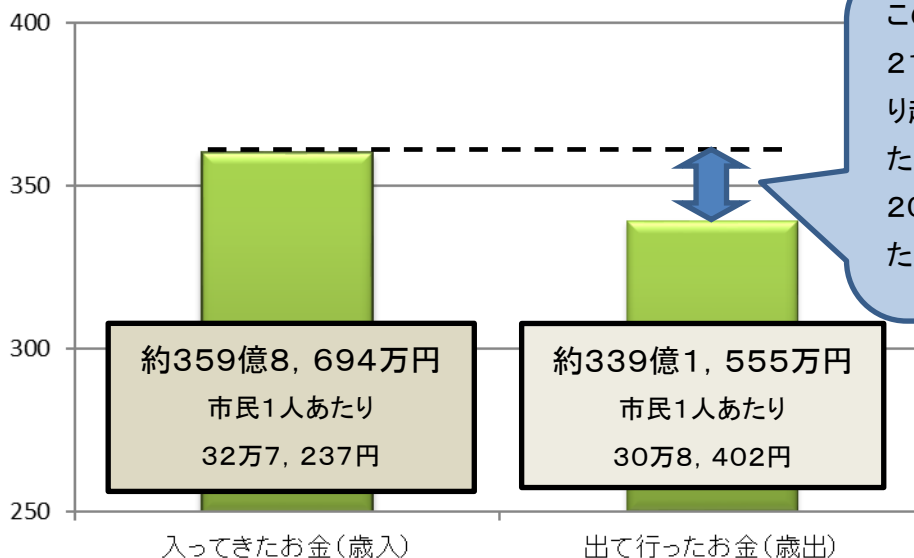


では、平成30年度にどれくらいのお金を扱ったのか、一般会計決算額をちょっと見てみましょう。

「一般会計」とは、福祉・教育・道路整備など、市の基本的な事業の収支を表す会計です。

■ 平成30年度 一般会計 決算額

(単位: 億円)



この差額(形式収支) 約21億円から、翌年度に繰り越す事業の財源を除いた額(実質収支)は、約20億円の黒字となりました。

(平成31年1月1日の住民基本台帳人口の109,972人から算出)

～ちょっと想像してみよう～

歳出の約339億円が一体どれくらいの高さになるか、1万円札を積み重ねてみると・・・

なんと、約339メートル※になります。

※100万円で1センチメートル

(参考) 東京タワー・・・333メートル

鋸山(千葉県)・・・329メートル



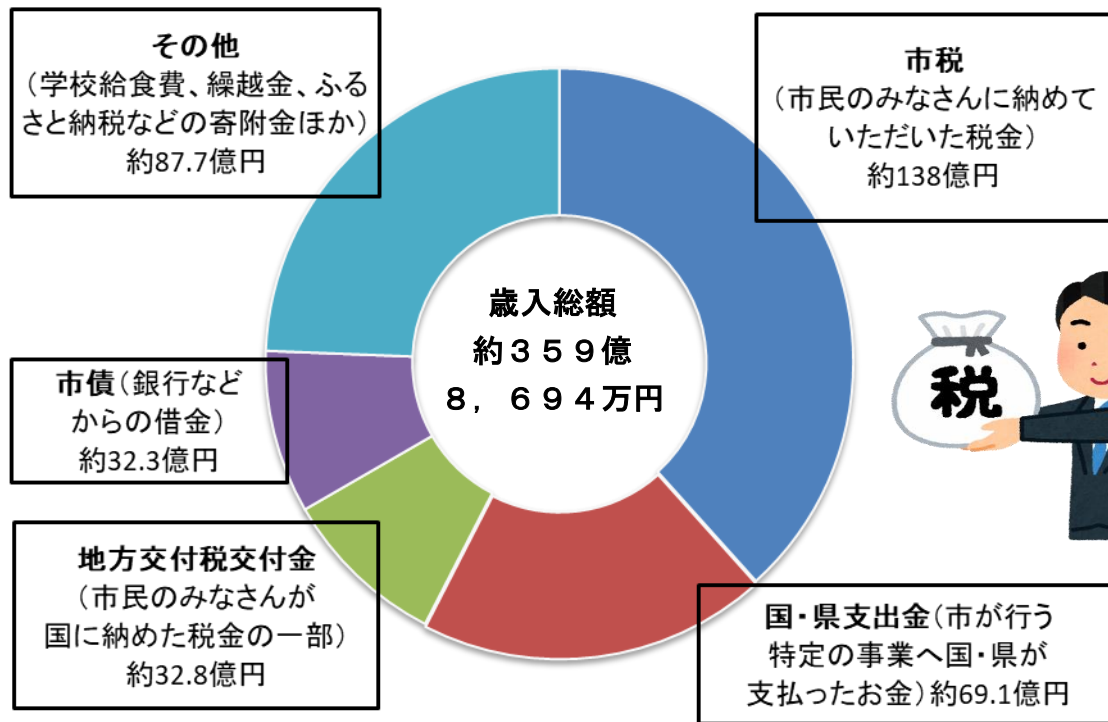


鎌ヶ谷市にはどんなお金が入ってくるのですか？

それでは、平成30年度に鎌ヶ谷市に入ってきたお金（歳入）をちょっと見てみましょう。



■ 平成30年度 一般会計 歳入 決算額



鎌ヶ谷市は、市民のみなさんに納めていただいた税金に加え、国・県からもらうお金や、銀行などから借金をして運営しています。

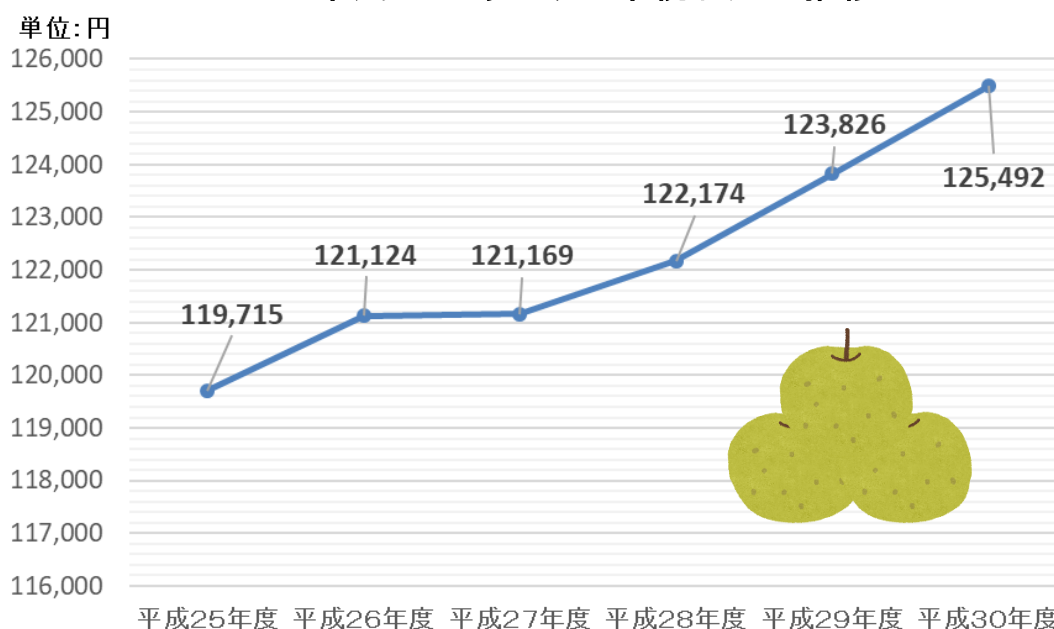
「市税」は、市にとって、とても重要な財源となっています。また、できるだけ鎌ヶ谷市内でお買い物をしていただくことや、他市にお住まいの方に鎌ヶ谷市へのふるさと納税（ご寄附）を勧めていただくことも歳入アップにつながります。

市民のみなさんからどのくらいお金を納めてもらっているのですか？



市民一人あたりの市税収入（市民のみなさんに納めてもらった税金）をちょっと見てみましょう。

■ 市民一人あたりの市税収入の推移



(平成31年1月1日の住民基本台帳人口の109,972人から算出)



平成30年度の市民一人あたりの市税収入は、約12万5,492円で県内37市中多い方から25番目です。これは、首都近郊の住宅都市として発展した本市には企業や工場が少ないため、法人市民税や固定資産税が極端に少ない財政構造となっているためです。

近年上昇傾向にありますが、他市に比べて、市税が少ないということは、鎌ヶ谷市が自由に使うことができるお金が少ないということになります。

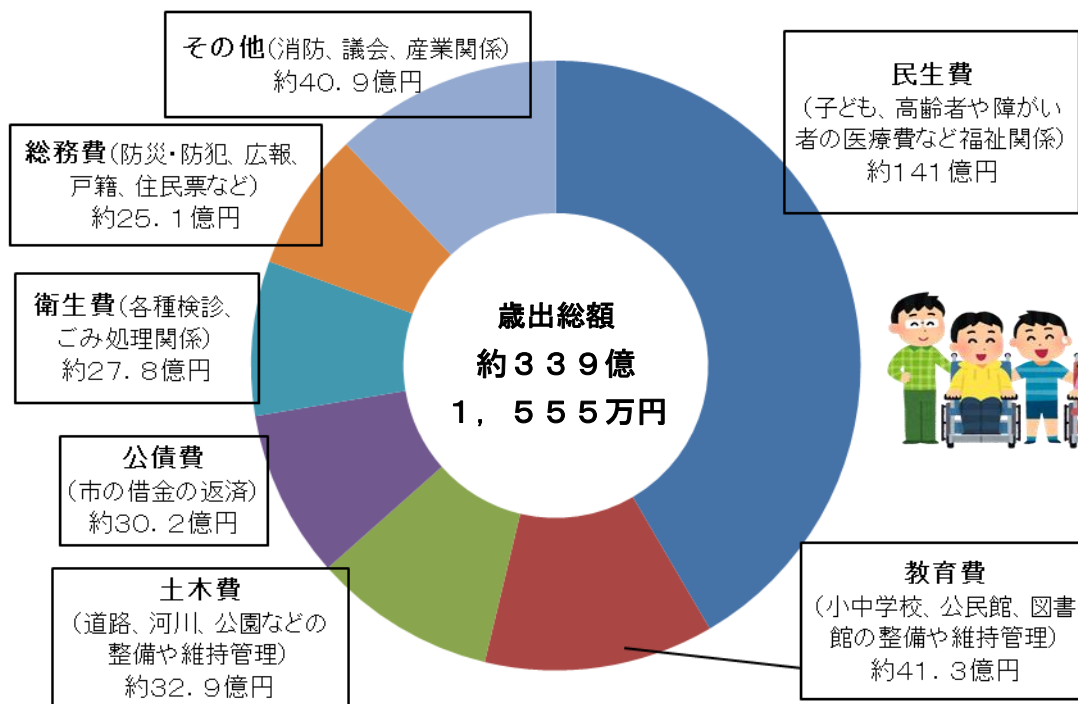


では、「何のため」(目的別といいます。)にお金を使ったのですか？

平成30年度に鎌ヶ谷市が何のためにお金(歳出)を使ったのか目的別決算額をちょっと見てみましょう。



■ 平成30年度 目的別 歳出 決算額



一番多いのは民生費で約141億円と全体の41.6%を占めています。健康福祉(医療費や保育園・児童センターなど)の関係にとっても多くのお金をつかっていることがわかります。そのほか、教育費(学校の整備など)や土木費(道路の整備など)に多く使われています。



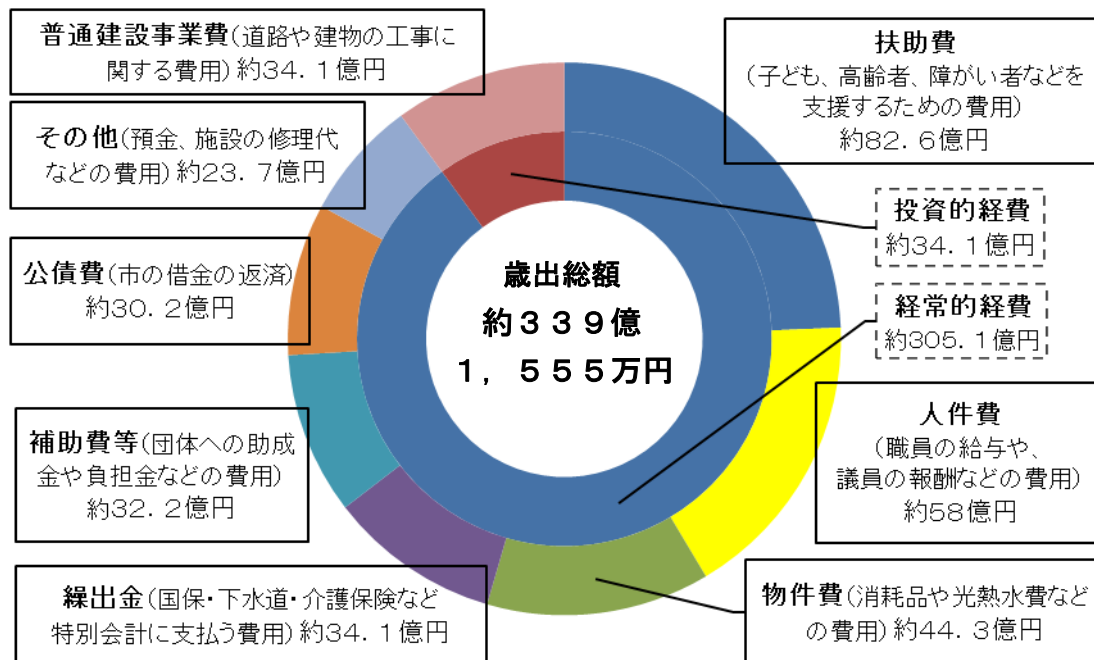
「どんなこと」(性質別といいます。)にお金を使ったのですか？

平成30年度に鎌ヶ谷市がどんなことにお金(歳出)を使ったのか性質別決算額をちょっと見てみましょう。

ちなみに、光熱水費や借金の返済など毎年決まって支出しなければならない経費を「経常的経費」といい、道路の建設や施設の改良などに使われる経費を「投資的経費」といいます。



■ 平成30年度 性質別 歳出 決算額



経常的経費が全体の約90%を占めています。
 今後は、少子高齢化の影響による扶助費の増加や施設改良のための借金の返済(公債費)といった経常的経費が増えることが見込まれています。

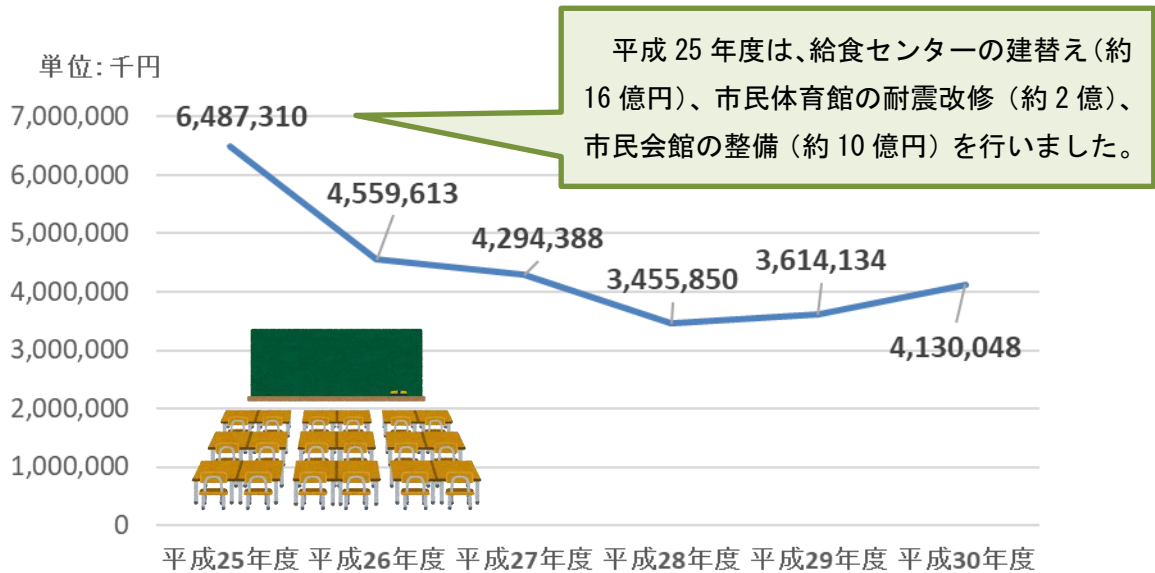


ちなみに、僕たちが通う学校などの「教育」にはどれくらい
お金を使ったのですか？

それでは、近年の教育費（決算額）の推移をちょっと見てみ
ましょう。



■ 近年の教育費（決算額）の推移



平成30年度の鎌ヶ谷市の教育費は、約41億3,005万円でした。この教育費には、小・中学校でみなさんが安心して勉強できるように学校の改修工事費、コンピュータの維持費、学校の電気代や水道代なども含まれています。

平成30年度には全小学校のトイレの洋式化に向け、工事のための設計や工事を進めました。

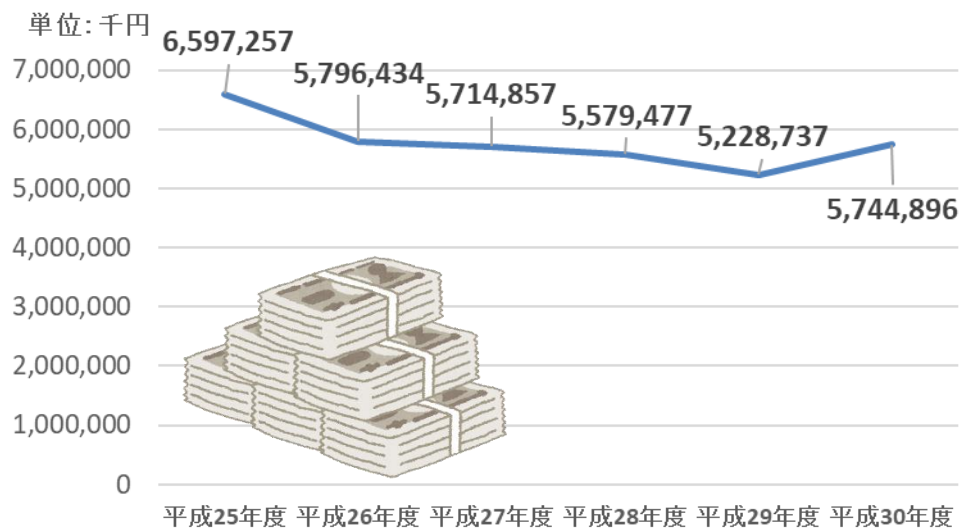
ほかにも、公民館、学習センター、スポーツ施設、郷土資料館に使ったお金も含まれています。

いろんなことにお金を使っていることがわかりましたが、
鎌ヶ谷市に貯金はどれくらいあるのですか？



鎌ヶ谷市をはじめ地方公共団体は、将来の経済的な影響や
災害などに対応するため、目的に応じた貯金をしています。
これを、市では「基金」と呼んで管理しています。
基金（貯金）残高をちょっと見てみましょう。

■ 近年の基金（貯金）残高の推移



鎌ヶ谷市の平成30年度末の基金残高は約5.8億円で、市民
1人あたり5万2,240円となりました。

基金残高は、鎌ヶ谷市の財政状況が一番厳しかった平成19
年度末と比較すると約4.9億円の増加となります。



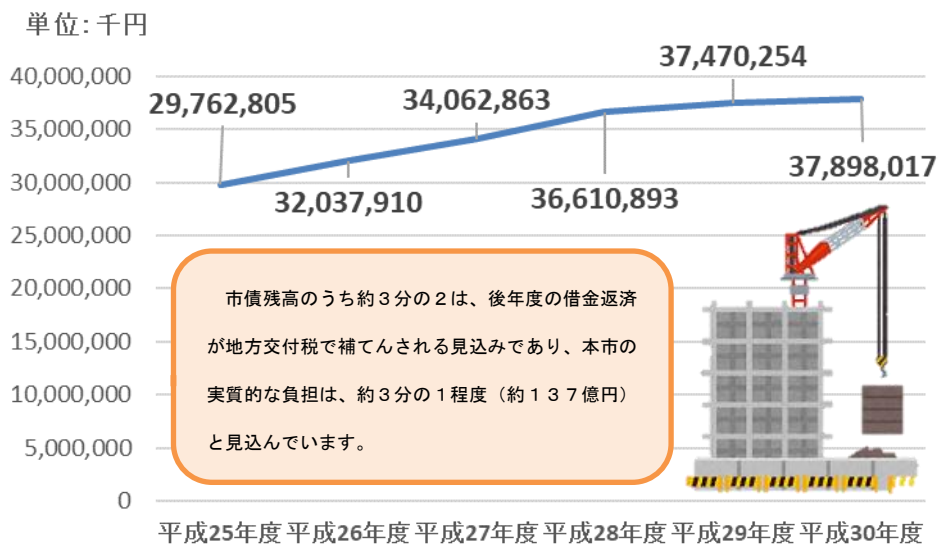


これからも借金の返済があるという話がありましたが、鎌ヶ谷市の借金はどれくらいあるのですか？

市の借金は、市債の状況で見ることでわかります。
市債とは、市が仕事に必要なお金を銀行などから借りたお金（ローン）のことです。
市債（ローン）の残高を見てみましょう。



■ 一般会計の市債（ローン）の年度末残高の推移



平成30年度末の市債残高は約379億円です。市民一人あたりの市債残高は約34万5千円、県内37市の中で借金が多い方から15番目です。

でも、「貯金があるのに何で借金するのだろうか？」という疑問をお持ちの方もいらっしゃると思います。

学校などの施設を建てると、その後は何十年と使いますので、建てたときの人たちだけでこのお金を全て負担するのは不公平です。分割して支払うことで、将来の世代の人たちにも公平に負担していただくためです。また、建物や道路の整備には多額の費用がかかるため、一度に支払ってしまうと、その年度は他のことにお金を使うことができなくなってしまいます。

それにしても鎌ヶ谷市が扱うお金はとても多いですね。
鎌ヶ谷市の財政（決算）を家計におきかえるとどうなりますか？



鎌ヶ谷市の1年間の収支を家計簿にあてはめてみました。
家計と市の会計では、お金の使い道も規模も全く違いますが、
平成30年度に鎌ヶ谷市へ入ってきたお金約359億8,694
万円を年収500万円の家計に例えてみました。

収
入

家計		市の会計		金額	
給料		市税		192万円	
駐車場収入など		使用料・手数料など	自主財源	66万円	
貯金の利子、取り崩し		財産収入、基金繰入金		22万円	
親からの 仕送り	使い道が決まっている	国・県支出金		依存財源	96万円
	自由に使える	地方交付税	45万円		
借金		市債			45万円
その他の収入		地方譲与税など			34万円
合 計				500万円	

支
出

家計		市の会計		金額
医療費		扶助費		115万円
光熱水費など		物件費・補助費など		106万円
食費		人件費		81万円
家の増改築		普通建設事業費		47万円
子どもへの仕送り		繰出金		47万円
借金の返済		公債費		42万円
家の修理代など		維持補修費など		5万円
貯金		積立金		28万円
合 計				471万円

家計でいうと医療費（扶助費）が多くかかっていることがわかりますね。





入ってくるお金のなかでやりくりしていることが分かりましたが、お金の使い方は一体どうやって決めているのですか？

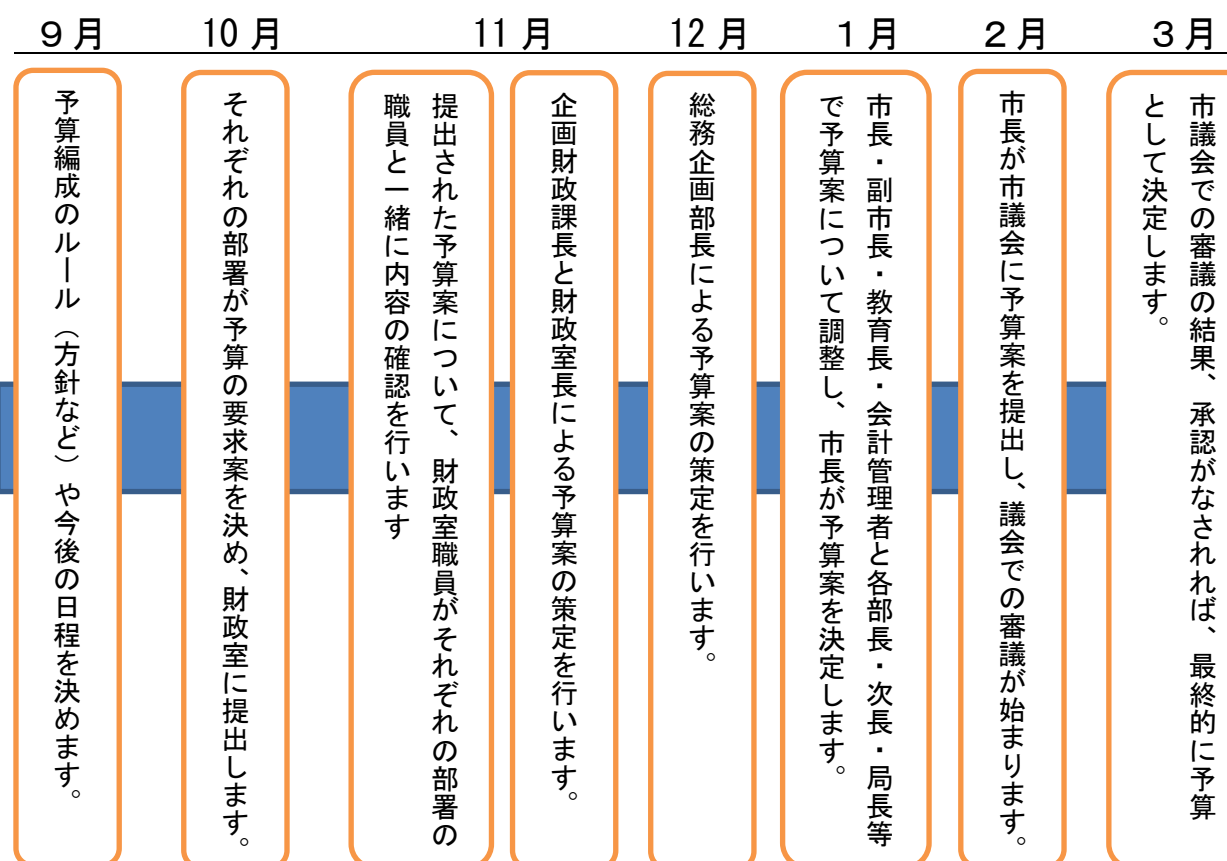
まず市長をはじめとした市役所職員みんなで、市民の皆さんの意見を考慮しつつ、計算や議論をしてどれだけのお金が入ってくるのかと使い道の案（予算案）を考えます。

そして、その編成した案を鎌ヶ谷市議会に提出して、皆さん市民の代表である市議会議員の方々と更に慎重に話し合っ
て、最終的には市議会で予算として決定されます。

実際に来年度の予算をつくる流れを見てみましょう。



■ 令和2年度の予算編成スケジュール（予定）



大きな買い物をするときの家族会議のようなイメージですね。
なお、不測の事態になり決まった予算ではお金が不足するようときは、「補正予算」をほぼ同様の流れで編成していきます。基本的には市議会で6月・9月・12月・3月に補正予算があれば審議しています。

12 時 限 目



平成30年度は、主に次のようなことに市の予算（お金）を使いました。

<p>義務教育施設維持補修事業 6億3,283万円 各小中学校の改修工事を行うとともに、全小学校のトイレの洋式化に向け、工事のための設計や工事を進めました。</p>	
<p>新京成線連続立体交差事業 5億2,912万円 新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消するため、高架橋、駅舎、軌道、電気工事などを行いました。 平成29年10月から下り線（津田沼方面）が高架化されており、令和元年度全線高架化を目指し事業を進めています。</p>	
<p>陸上競技場改修事業 4億9,629万円 日本陸上競技連盟第4種陸上競技場公認の取得を行うため、競技トラックを全天候型ウレタン舗装、インフィールドを人工芝に改修するなどの工事を行いました。</p>	
<p>準用河川整備事業 3億6,642万円 降雨による水害防止のため、準用河川二和川の護岸改修や二和川バイパスの整備工事を行いました。</p>	
<p>第2斎場建設事業 1億5,997万円 第2斎場「しおかぜホール茜浜」の建設を実施しました（船橋市・習志野市・八千代市・鎌ヶ谷市で構成する四市複合事務組合による事業です）。なお、令和元年10月から供用開始されます。</p>	
<p>道路維持・補修事業 1億4,860万円 市民要望や市内パトロール等により得た情報を元に、調査・検討を行い必要に応じて道路補修を実施しました。</p>	
<p>雨水貯留池整備事業 1億2,697万円 大雨時の流出抑制のため、南初富二丁目貯留池の整備工事を行いました。</p>	



いろいろと説明してもらいましたが、鎌ヶ谷市の財政状況は大丈夫なのですか？

鎌ヶ谷市は、過去に一度も赤字になったことはありません。
今回お伝えした平成30年度決算では、約20億円の黒字(※1)となっています。

また、国は地方公共団体の財政状況を統一的な指標(※2)で明らかにするため、法律により注意しなければならない基準(※3)を設けています。

現時点の鎌ヶ谷市は基準を大きく下回っており、財政状況は健全です。
今後、少子高齢化の進展により福祉にかかる経費が増加するほか、借金の返済など、義務的なお金も増加する見込みである(※4)ことから、行財政改革を進め、毎年度の予算編成の中で一層の歳入確保・歳出削減を行っていきます。さらに、国の地方に対する財政政策を注視し、市民サービスの向上に配慮しつつ、今後とも堅実で持続可能な財政運営に取り組んでいきます。



※1 国が定める全国統一の計算方法で「実質収支」のことをいいます。

「実質収支」とは、2時限目に出てきた歳入と歳出の差額(形式収支)から、平成30年度に完了できず、令和元年度へ繰り越した工事などのための繰越金を差し引いた額のことです。

※2 国は市町村が借金をし過ぎないように、実質公債費比率(標準財政規模に対する借金の返済額の大きさを示す指標)と将来負担比率(標準財政規模に対する債務残高の大きさを示す指標)を設けています。

※3 早期健全化基準(いわゆるイエローカード)のことをいい、この基準を上回らないことで財政状況が健全であるといえます。

《参考》

平成30年度決算における実質公債費比率 2.0% (早期健全化基準 25%)

将来負担比率 27.1% (早期健全化基準 350%)

※4 経常収支比率(市税など決まった収入が、必ず支払わなければならない経費にどれくらい使われているかを示す指数)は、90%を超えて増加傾向にあります(平成30年度決算では、国基準で95.9%)。この比率が低ければ低いほど財政に余裕があり、自由に使えるお金が多いことを表します。逆に100%に近づくと余裕が無くなっていきます。いかに歳入を増やし、支払わなければならない経費を少なくするかが今後の課題です。